

広島市立第一高等女学校の被災状況

戦局の悪化に伴い1945年(昭和20年)4月から現在の中学生以上の生徒は授業が中止され、年間を通して食糧生産や軍需工場に動員されていました。広島原爆では約7,200名の子どもたちが犠牲となりました。中でも、建物疎開作業のため爆心地に近い屋外で作業をしていた生徒の被害は甚大で、1~2年生のほとんどが動員された広島市立第一高等女学校(現在の市立舟入高等学校)は666名の生徒が亡くなり、最もも多い犠牲者数となりました。



広島市立高等女学校の木造校舎。
1926年(大正15年)舟入川口町に
移転する際建設された。中央に塔が
見えるモダンな校舎だった。
(市立舟入高等学校提供)



被爆後間もない頃の広島市立第一
高等女学校。焼失は免れたが、南側
校舎(左手側)の屋根が大きく破損
している。
1945年(昭和20年)10月米軍撮影
(広島平和記念資料館提供)



1946年8月に被災現場の
材木町に建立された木製の
供養塔
(市立舟入高等学校提供)

『流燈 広島市女原爆追悼の記』の刊行

市女遺族による犠牲者への慰靈祭は、1946年(昭和21年)から毎年、作業現場のあった材木町で営まれてきました。1948年には、学校内に平和塔と呼ばれた石碑が建立されました。未だ占領下にあり、原爆や慰靈の文字を使わずに、原爆の原理の基礎となつたとされるアインシュタイン博士の公式E=MC²が刻まれています。

13回忌を迎えた1957年(昭和32年)8月にこの石碑は、現在地の平和大橋西詰に移設され、同時に遺族による追悼集『流燈』が刊行されました。追悼集には学徒動員から終戦までの経過が克明に記録され、遺族による追憶の記とともに生徒らの遺稿も掲載されています。



右下が1957年(昭和32年)に刊行された
『流燈』。これまで続編や復刊版が刊行さ
れ、貴重な記録として読み継がれている。

開館時間
12月~2月 8:30~17:00
3月~11月 8:30~18:00
(8月~19:00 5日・6日~20:00)

休館日
12月30日、31日

入館料
無料

交通案内
JR広島駅(南口)から約20分

- バス/広島バス吉島方面行で「本通り」または「平和記念公園」下車
- 市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通り」下車
- 宮島口・西広島・江波行で「原爆ドーム前」下車

駐車場はありません



お問い合わせ先

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL 082-543-6271 FAX 082-543-6273
ホームページ <https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

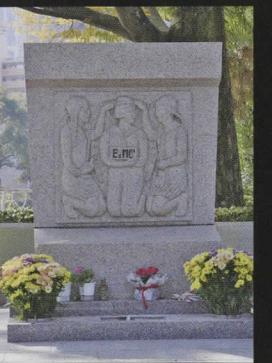
当館では、被爆体験記と原爆死没者のお名前・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心とした写真、関連する資料などを展示し、特定のテーマから被爆の実相に迫ります。被爆体験記や原爆死没者のお名前・遺影をお寄せください。皆さまのご協力をお願いいたします。

2019年 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 企画展

Hiroshima National Peace Memorial Hall for the Atomic Bomb Victims Special Exhibition

入場無料

Admission Free



E=MC²の文字が刻まれた広島市立高女
原爆慰靈碑(平和大橋西詰)



広島市立第一高等女学校の生徒の
被害状況が克明に記された経過日誌
(広島市立舟入高等学校蔵)

りゅう
とう
流燈

Lantern Floating

広島市女原爆追悼の記 最も多くの犠牲を出した女学校の記録

Memorial for the A-bombing at Hiroshima Ichijo

- Records from a girls' high school that suffered the greatest sacrifice

一時間作業し、八時休憩になり誓願寺の大手の側で腰を掛け、友達三人で休んでいると、ああ落下傘が三つ、綺麗綺麗と……

ぴかり光ったので、目を抑え耳に親指を入れて伏せたら、大手が倒れ、腰から下が下敷になり、頭の麦藁帽子は火が付き焼けていました。

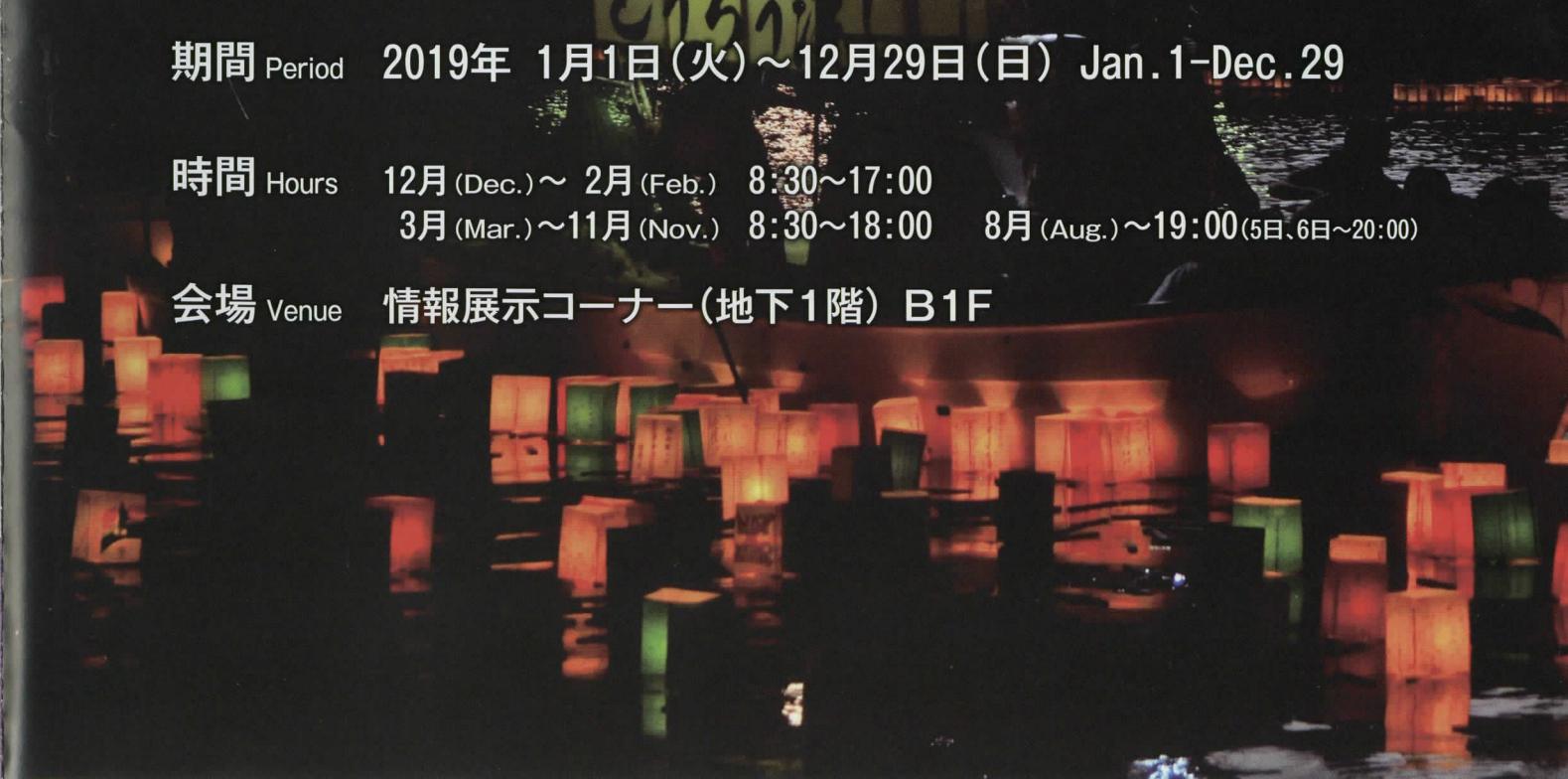
あたりの友達を見れば皆目の玉が飛び出し頭の髪や服はぼうっと焼けて、「お父ちゃん助けて、お母ちゃん助けて、先生助けて」と口々に叫んでおりました。

(8月13日まで生き延びた森本幸恵さんの母トキ子さんの手記「追憶の記」より)

期間 Period 2019年 1月1日(火)~12月29日(日) Jan. 1-Dec. 29

時間 Hours 12月(Dec.)~2月(Feb.) 8:30~17:00
3月(Mar.)~11月(Nov.) 8:30~18:00 8月(Aug.)~19:00(5日、6日~20:00)

会場 Venue 情報展示コーナー(地下1階) B1F



坂本潔・文子さんの「城子の最期」より

築山城子さん 2年生



城子は川の石に腰掛けていた。朝からこの時刻までどんな気持でわれわれの来るのを待っていたか、よく苦しみをおさえこらえて生きていってくれた。多分他の皆さんも同じ思いであったでしょう。苦しい中からも父母兄弟に救いを求めつつ、これが戦争だ、天皇陛下万歳と絶叫して散った少女の尊い犠牲は永久に忘れられぬ。直ちに川に飛び込んで行き、「城子ちゃんの」と、たずねる程顔は腫れ目は糸筋の如く頭髪は焼けちぢれ口唇は脹れて見る影も無い容貌に思わず城子ちゃんかと念をおせばかすかにうなづく。



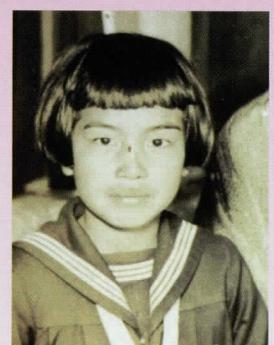
城子さんの被災状況を証言する母親の坂本文子さん



文子さんが奉納した
石碑
「平和のことよろしく」と刻まれている。
(中区中島町・天満神社)

入田正子さんが学童疎開中の妹に宛てた手紙より

入田正子さん 1年生 12歳

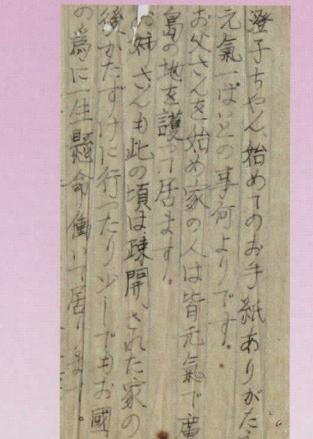


澄子ちゃん、はじめてのお手紙ありがとうございます。
元気いっぱいとの事、何よりです。
お父さんをはじめ、家の人は皆元気で広島の地を
護っています。

お姉さんもこの頃は、疎開された家の後かたづけに行ったり、少しでもお国のために一生懸命働いております。
(中略)

澄子ちゃんたちは、自分の命がほしいために疎開したのではありません。日本人は大和魂をもっています。死ぬときは、いっぺんにあの美しい桜の花のようにいさぎよく散るのであります。

澄子ちゃんも先生、寮母さんの言いつけを守ってよい子に一日も早くなってください。
ではお元気で



正子さんが妹に宛てた手紙



正子さんが描いた自画像
(上下とも：広島平和記念資料館蔵)

森本トキ子さんの「追憶の記」より

森本幸恵さん 1年生 13歳



九日似島にいる事が分りました。以下は幸恵の言葉のままです。
一時間作業し、八時休憩になり誓願寺の大手の側で腰を掛け、友達三人で休んでいると、ああ落下傘が三つ、綺麗綺麗と皆騒がれるので自分も見ようと思い、一步前に出て上を向くと同時にぴかり光った。

長い事かかり大手の下から出事が出来、あたりの友達を見れば皆目の玉が飛び出し頭の髪や服はぼうっと焼けて、「お父ちゃん助けて、お母ちゃん助けて、先生助けて」と口々に叫んでおりました。

幸恵は、「広島第一高女一年生第五組の橋本先生にお世話になりました。お友達の皆さん永らくお世話になりました。……私はお先に行きます。さようなら、さようなら」とお別れしますので「隆雄兄ちゃんの処へ行くのか」と戦死した長男の事を言いますと首をうなずきましたので、「ではお父ちゃんも先に行って待っておられるから、お父ちゃんや、お兄ちゃんの処へ行きなさいよ」と言いますと、「ふうん」と言ったきり息を引き取りました。

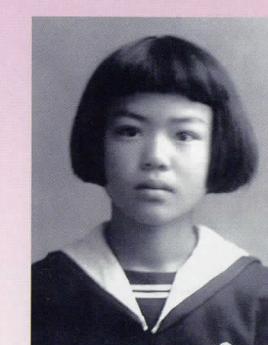
市女の生徒さんが六百人も犠牲になられた中で一番最後迄生きておりました。



材木町付近の被災状況
(米国戦略爆撃調査団撮影
広島平和記念資料館提供)

野口時子さんの「師の愛を思う」より

野口芳子さん 1年生 12歳



「教え子を水槽に入れ自らは掩いとなりて逝きし師のあり」

これは市女原爆先生と生徒の追悼の碑の裏の和歌の一首であります。私の子供は、森先生に火の盾となって頂いて水槽の中に死んでおりました。
十四日に学校で御経納がありました。

遺族の兄さんと思われる年輩の人が「一寸」と言って進み出られて「あの焼けあとを歩いておりますと、生徒を水槽に入れてそれを掩うようにして先生が死んでおられたのを見て私は非常に感激致しました。」
と言われました。私が言わなければならない事をこの人が言うて下さった。



市女追悼碑の裏に刻まれた宮川造六校長の短歌
持明院境内
(東区戸坂千足)



水槽の様子
(市民が描いた原爆の絵
桑本トキコさん作 広島平和記念資料館蔵)